

平成 27 年 9 月 18 日

各 位

新発田市立本丸中学校

校長 岡 田 正 栄

## 平成 27 年度本丸中学校「学校評価」中間報告

秋涼の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本丸中学校では教育活動を充実させ「本丸中学校グランドデザイン」の実現に向けて学校評価を行っております。生徒・保護者による 1 学期末のアンケート結果（7 月実施）を基に、教職員が「知・徳・体」の分野に分かれて自己評価し、改善策を立てました。それを学校関係者評価委員会に諮り、ご意見をいただきました。

これらの結果を中間報告として下記のようにお知らせいたします。ご一読いただき、本丸中学校の様子をご理解いただけると幸いです。また、今後とも本丸中学校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

### 「知・徳・体」の評価

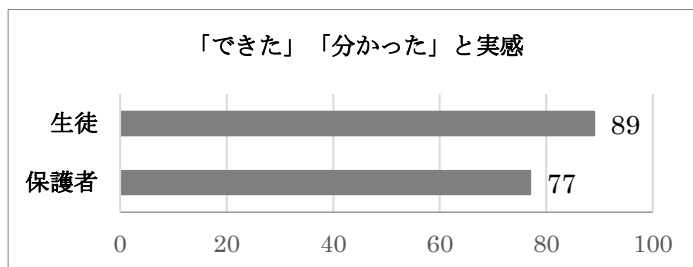
#### 目標 1

「できた・分かった」と実感して学習している生徒の割合を 85%以上にする	評価 <b>A</b>
--------------------------------------	-------------

（「とても」or「まあまあ」の肯定評価が A：85%以上 B：85%未満～65% C：65%未満）  
＝ アンケート質問 ＝（H27.7 月実施）

○ 日頃の授業で「できた」「分かった」と実感していますか。

- 1 とても実感している
- 2 まあまあ実感している
- 3 あまり実感していない
- 4 全く実感していない



#### 目標 2

Web 配信テストにおいて、各教科 70%以上のクラスが県平均を超える	評価 <b>B</b>
-------------------------------------	-------------

（Web 配信テストで県平均を超えた割合が A：70%以上 B：50%以上～70%未満 C：50%未満）

○ 3 回（H27 5 月・6 月・7 月）の Web 配信テストの結果

全校 16 学級の県平均を超えた割合が 69%（87 回／126 回中）

#### ◆参考資料◆

\*NRT の偏差値 5 教科平均（H27.4 月実施）

本丸中	H25	H26	H27
1 年生	49.7	49.4	52.4
2 年生	46.8	48.1	49.8
3 年生	48.0	46.6	48.4

<学校から>

当校では、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育成するために、生徒が「できた」「分かった」と実感できる授業を目指して全校体制で授業改善に取り組んでいます。また、客観的な評価の指標として、今年度から Web 配信テストの結果を加えました。

授業に対する生徒の評価（「できた」「分かった」と実感）は、9教科平均で89%（昨年度89%）と目標を上回りました。また、5月～7月の3回の Web 配信テストの結果、県平均を超えた割合は69%で、目標値まではもう一歩でした。

これらは、1学期の各学級の授業が落ち着いた雰囲気の中で行われ、全職員が「できる・分かる」が実感できる授業づくりを意識して実践してきたこと、月に3日、Web 配信問題を活用して学習する時間を設定したこと等による成果だと考えています。2学期以降は、次の点に配慮して取り組みます。

- ① 学習規律を守ることをさらに徹底し、チャイムと同時に授業を開始するなど、落ち着いた雰囲気の中で授業を行います。
- ② 授業で「めあて」を生徒と共有し、生徒が目的意識と見通しをもって学べるようにします。また、すべての教科で、生徒同士が教え合ったり、考えたことを説明し合ったりする「関わり合って学ぶ授業」を計画的に実施し、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりを進めます。
- ③ 「関わり合って学ぶ授業」の充実のため、ファシリテーション（話し合いの手法）を活用した授業づくり等の職員研修を進めていきます。（夏季休業中に1回実施）

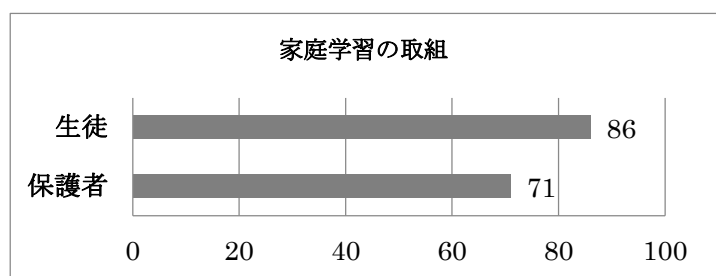
目標 3

家庭学習が習慣化している生徒を80%以上にする	評価 <b>A</b>
-------------------------	-------------

（「毎日家庭学習を行っている」割合が A：80%以上 B：60%以上～80%未満 C：60%未満）  
 = アンケート質問 = (H27.7月実施)

○ 平日、家で予習や復習などの家庭学習を行っていますか。

- 1 毎日行っている
- 2 だいたい行っている
- 3 行わないことが多い
- 4 ほとんど行わない



◆参考資料◆

\* 平日、1日あたりの家庭学習時間 (H27.7月調査 数字は%)

	2時間以上	2～1時間	1時間～30分	30分未満	ほとんどしない
1年生	9	73	16	2	0
2年生	8	62	24	3	3
3年生	15	41	29	12	3
全校	11	58	23	6	2

<学校から>

学習した内容を定着させるためには、家庭での学習習慣を身に付けさせることが大切だと考えています。家庭学習への取組状況（平日、毎日家庭学習をしている）は、1年生が96%、2年生が82%（1年時83%）、3年生が81%（2年時74%）でした。昨年度と比べて、全校で約10ポイント毎日家庭学習をする生徒の割合が増えました。また、すべての学級で取り組んでいる「自学ノート（家庭で学習した内容を書いて提出する）」の1学期の提出率も全校で85%と良好でした。

今後は、自学ノートの内容を充実させていくための働き掛けを手厚く行います。家庭学習強調週間で「1日1ページ以上書くこと」「学年の学習目標時間を示し目標をもって学習させること」「ノートづくりの工夫」の指導を全学年で行い、家庭学習の質的な向上を図っていきます。

<学校関係者評価委員会から>

- ・1年生が大変よく家庭学習に取り組んでいる。2・3年生の家庭学習時間がもっと増えることを期待する。自学ノートを出さない約15%の生徒への働き掛けを工夫して、学習に向かうようにしてほしい。
- ・勉強時間が長いからよいというわけではない。集中する時間、集中して取り組む姿が大事である。
- ・各学年の家庭学習時間とNRTの数値を比較すると、毎日学習に取り組む生徒の割合とNRTの数値には相関関係がある。普段の学習を地道にやると結果がついてくる。
- ・家庭学習の習慣を身に付けるためには、1年生の段階が大切である。1年生でしっかりと指導をしていただきたい。

「知・**徳**・体」の評価

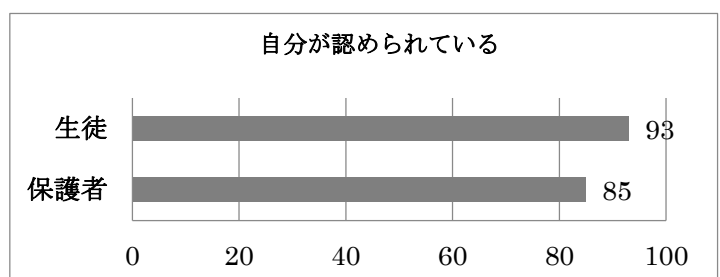
目標 4

学級のなかで「自分が認められている」と感じる生徒を85%以上にする	評価 A
-----------------------------------	------

（「とても」or「まあまあ」の肯定評価が A 85%以上 B 85%未満～60% C 60未満）  
＝ アンケート質問 ＝（H27.7月実施）

○ 学級の中で自分が認められていると感じていますか。

- 1 とても実感している
- 2 まあまあ実感している
- 3 あまり実感していない
- 4 全く実感していない



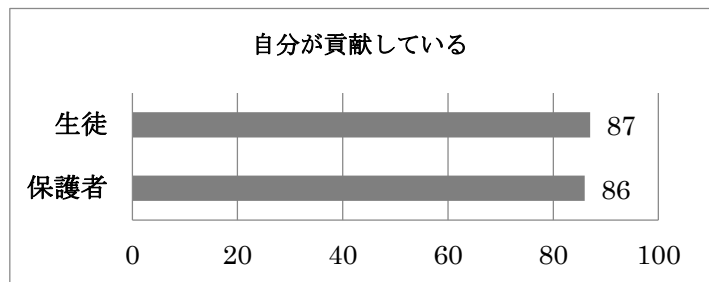
目標 5

学級、学校のなかで「自分が貢献している」と感じる生徒を75%以上にする	評価 A
-------------------------------------	------

(「とても」or「まあまあ」の肯定評価が A 75%以上 B 75%未満～60% C 60未満)  
 = アンケート質問 = (H27.7月実施)

○ 学級、学校の中で自分が貢献していると感じていますか。

- 1 とても実感している
- 2 まあまあ実感している
- 3 あまり実感していない
- 4 全く実感していない



<学校から>

当校では、子どもたちに、自己肯定感（「自分は認められている（存在感）」「自分は価値のある人間である（効力感）」や、健全な自尊感情を育むことを大切にして様々な活動に取り組んでいます。

生徒の評価では、「認められている（存在感）」93%（昨年度 87%）、「貢献している（効力感）」87%（昨年度 82%）と高評価でした。多くの生徒が入学、進級をして、新たな学校生活の中で良好な人間関係を築き、お互いに仲良く落ち着いた雰囲気ですごしています。今後は次のような活動を計画しています。

- ① 体育祭や合唱コンクールなどの行事で、仲間のよさを認め合うメッセージ交換などの異学年交流を行います。
- ② 各学級の班での話し合い活動（月に1回）や、健全な自尊感情を高めるためのライフスキル教育プログラム等を計画的に実施し、コミュニケーションの能力や人間関係づくりの能力を育成します。

目標 6

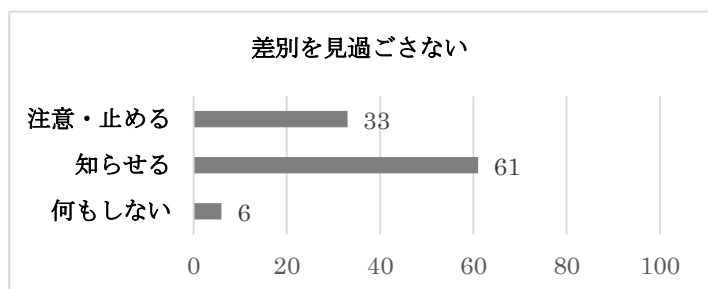
差別や偏見を見過ごさない生徒を100%にする	評価 B
------------------------	------

(差別や偏見に対して「注意・止める」「知らせる」生徒の割合が  
 A : 100% B : 90%以上 100%未満 C : 90%未満)

= アンケート質問 = (H27.7月実施)

○ いじめを受けている人がいたらどうしますか。

- 1 注意したり止めたりする
- 2 先生や家族や友達に知らせる
- 3 何もしない



## <学校から>

いじめは人権に関わる問題であり、命にも関わる重大な問題であることの認識を深め、いじめを絶対に見逃さない、許さないという思いを行動に移すことができる生徒を育てたいと考えています。

生徒アンケートでは、「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えている生徒は98%（昨年度97%）でしたが、いじめに対して「何もしない、できない」生徒が6%（昨年度10%）いました。

すべての生徒が勇気をもっていじめを見逃さない、許さないという言動がとれるようになることを目指して、次のような取組を行っていきます。

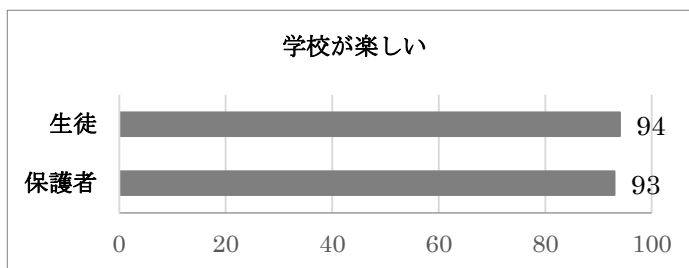
- ① 10月と11月を「いじめ見逃しゼロスクール強調月間」と位置づけ、この期間に生徒会主催の「いじめ見逃しゼロスクール全校集会」を開きます。自主制作のドラマやアンケートをもとに、いじめについて全校生徒で考えたり、いじめをなくすためのメッセージを書いて掲示したりする生徒の手による活動を推進します。
- ② 人権教育、同和教育に関わる授業を計画的に実施します。いじめや差別のない学校や社会にするために自分に何ができるか、自分は何をすべきか等について考えを深め合います。
- ③ 今年度は、新発田市教育委員会からの指定を受け、11月10日に同和教育研究発表会を開催します。この実践を通して、教師・生徒ともに人権感覚を磨いていきます。

## ◆参考資料◆

= アンケート質問 = (H27.7月実施)

○ 学校が楽しいですか。

- 1 とても楽しい
- 2 まあまあ楽しい
- 3 あまり楽しくない
- 4 楽しくない



## <学校関係者評価委員会から>

- ・アンケート結果から、自尊感情が高まると、いじめを見逃さない、許さないという行動力が高まるように思われる。いい相乗効果が生まれていると思う。
- ・「いじめを受けている人がいたらどうしますか。」という質問に対して、「何もしない」と回答している生徒がいる。なぜ、「何もしない（できない）」のか、理由を聞く項目を加えたらどうか。
- ・毎月、いじめに関するアンケートを行うなどの継続的な取組をしている成果が、いじめを許さないという意識の高まりにつながっていると思う。
- ・社会に出ると、コミュニケーション能力が大事になってくる。中学校の時期から、この能力を高める活動に力を入れて取り組んでいることは大変よいと思う。

「知・徳・**体**」の評価

目標 7

体力テストで課題となった項目が2学期末に向上した生徒を80%以上にする	評価 未
-------------------------------------	------

\* 2学期末に評価します。

◆参考資料◆

\* 体力テストの体力合計点（8種目）の対全国偏差値（全国平均50）の推移（H27.5月実施）

	H25	H26	H27		1年生	2年生	3年生
全校男子	50.9	52.9	52.8	男子	51.7	56.6	50.2
全校女子	48.4	49.6	50.2	女子	52.1	53.0	45.4

（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m、立ち幅とび、ハンドボール投げ）

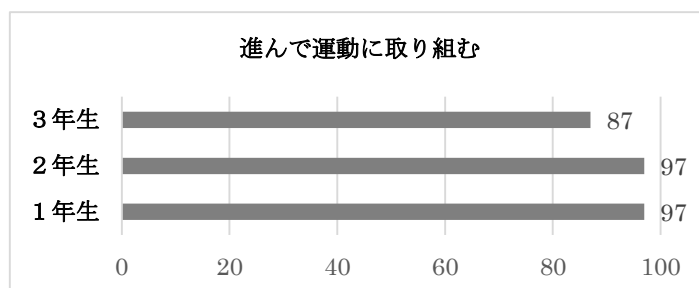
目標 8

進んで運動に取り組む生徒を85%以上にする	評価 A
-----------------------	------

（「とても」or「まあまあ」の肯定評価が A 90%以上 B 90%未満～70% C 70%未満）  
 = アンケート質問 = (H27.7月実施)

○ 体育や部活動で、体力の向上や技術の向上に向けて進んで取り組みましたか。

- 1 よくあてはまる
- 2 あてはまる
- 3 あまりあてはまらない
- 4 あてはまらない



<学校から>

体力テストの対全国偏差値の推移を見ると、男子は常に全国平均を超えています。男子と比較すると女子が低い傾向にありましたが、今年度は改善の傾向が見られます。特に2年生の数値は良好です。1年次の取組の成果と考えられます。残念ながら、3年生の女子は全国平均を下回りました。授業に対する意欲・態度は年々向上しています。

個別の種目に注目すると、以下の種目や学年で全国平均を下回っています。

- ・ 全学年男女のハンドボール投げ
- ・ 2年生の男子以外の50m走と立ち幅跳び

課題の改善に向けて、2学期以降次のような対策を講じていきます。

- ① 投げる力、持久力、走力、機敏性が不足しているので、授業の導入での補強運動や授業の中で、短距離ダッシュ、スクワットジャンプ、キャッチボール等を取り入れます。
- ② 話し合う場面を設定したり、学習カードを活用したりして、自分の取組や技能の向上を振り返る場面をつくります。

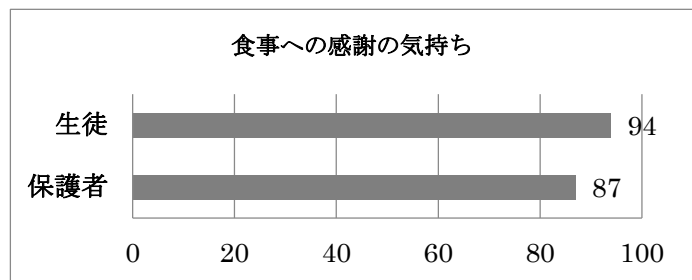
目標 9

感謝の気持ちをもちながら食事ができた生徒を90%以上にする	評価 A
-------------------------------	------

(「とても」or「まあまあ」の肯定評価が A 90%以上 B 90%未満～70% C 70%未満)  
 = アンケート質問 = (H27.7月実施)

○ 食事のとき、食物や生産者、料理をつくってくれた人に感謝しましたか。

- 1 感謝の気持ちをもてた
- 2 まあまあ感謝の気持ちをもてた
- 3 あまり感謝の気持ちがもてなかった
- 4 全く感謝の気持ちがもてなかった



<学校から>

生徒が食に対する正しい知識を身に付け、日々の生活の中で実践ができるように、地産地消（新発田市の食材）や学校給食と関連付けた指導を行っています。また、2年生では、技術の時間で、野菜づくりを通して、食のサイクルを理解し、感謝の気持ちにつながる活動を行っています。

1学期の生徒の評価では、感謝の気持ちをもって食事ができた生徒が94%と高評価でした。しかし、感謝の気持ちをもちながらも、苦手なものが出ると、全く食べずに残してしまう生徒や感謝の気持ちがもてなかった生徒が若干いました。今後も引き続き、各担任が食事作法や会食のマナーの指導を丁寧に粘り強く行っていきます。また、技術・家庭科を中核とし、各教科・領域で、食のサイクルや地域の食文化を理解させる等、食育の取組を進めます。

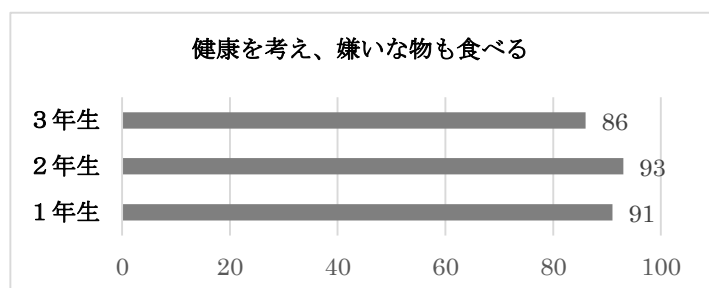
◆参考資料◆

\* 「食事できらいなものがでた時はどうしていますか」

(A 健康を考え、全部食べる B健康を考え、少し食べる C 食べないで残す)

生徒アンケート H27.7月実施 数字は%

	A	B	C
1年生	43	48	9
2年生	54	39	7
3年生	44	42	12
全校	47	43	10



<学校関係者評価委員会から>

- ・「食事のとき、食物や生産者、料理をつくってくれた人に感謝しましたか。」という質問項目は見直すべきである。大人でも、食事をしているときに常に感謝の気持ちをもつことは難しい。むしろ、「食事できらいなものがでた時はどうしていますか」の質問を主たる数値目標に掲げたほうがよいと思う。
- ・体育祭で、2年生の女子が活発に取り組んでいる姿が印象に残った。女子もがんばっていると感じた。
- ・小学校でも、投げる力が弱いと聞いた。小中共通の課題である。ハンドボール投げの力を伸ばすには、ハンドボールを用いてキャッチボールをする等の工夫も必要である。





## 平成 26 年度本丸中学校「学校評価」中間報告

本丸中学校では教育活動を充実させ「本丸中学校グランドデザイン」の実現に向けて学校評価を行っております。生徒・保護者による1学期末のアンケート結果（7月実施）を基に、教職員が「知・徳・体」の各分野に分かれて自己評価し、改善策を立てました。これらの結果を中間報告として下記のようにお知らせいたします。なお、各目標に記載してある評価A～Cは、学校が設定した目標への到達度を示す自己評価です。

### 2 全国学力・学習状況調査における平均正答率の新潟県の傾向

新潟県	H24	H25	H26
国語A	-0.1	0.1	0.1
国語B	-0.6	-0.8	-0.7
数学A	-1.1	-1.0	0.5
数学B	-2.0	-2.3	0